

2020年度「学校教育目標」

教育方針

1 建学の精神

「学術とスポーツの真剣味の殿堂たれ」

2 校 訓

「真 剣 味」

3 指導目標とその実践

建学の精神・校訓を体得させ、知・徳・体の調和のとれた人格を涵養するとともに、平和的・民主的な社会の形成者を育成する。

また、本校の輝かしい歴史と伝統の下、愛校心と生徒相互の連帯意識を養成するとともに、本校で学ぶ誇りと自覚をもって行動できる生徒を育成する。

(1) 建学の精神の四大綱を、教員が率先垂範することにより体得させ、望ましい社会人としての品性を養成する。

① ルールを守る

学校もまた一つの社会であり、そこで生活する生徒の守るべき身近な規範は、生徒心得として示される学校の規則であることを理解させる。

また、授業・学校行事・部活動など学校生活のあらゆる場でルールを遵守することの大切さを理解させるとともに自律心を養成する。

② ベストを尽くす

校訓「真剣味」の真髄は何事にも真剣に努力することであり、これは生涯を通じて実践すべき事項であることを理解させる。

また、学校生活においては、欠席・遅刻・早退をせず、精勤をモットーとし、学業や部活動に精励・努力させる。

③ チームワークをつくる

人が協同して有意義に社会生活を送るためには、チームワークをつくることが大切であることを理解させる。

また、チームワークをつくるためには、各自がスポーツに限らず、様々な場で自分の役割を正しく認識し、その責務を果たすことが大切であることを理解させる。

④ 相手に敬意をもつ

人間社会において大切なことは、自分と同じように他人を大切にすることであることを理解させる。

また、相手に敬意を持つということは、その人の生命や人格を尊重することであることを理解させる。

(2) 高い志を持ち、自ら学ぶ術を高め、それぞれの個性・適性を重んじた進路の実現を図る。

- ① 自己教育力の確立を図る
自らの課題を求め、自ら学び解決する自己教育力を養成する。
そのためには、教員が生徒の能動的な学習を引き出す授業改善に取り組み、予習復習を前提とした授業づくりや継続的な課題提示などにより、自学自習の定着を図る。
 - ② 適切な進路指導を実践する
進路の問題を「高い志を持った生き方」の問題としてとらえ、第1学年から第3学年まで、それぞれの時期に合った志を育む進路指導を実践する。
また、進路部・学年・教科の連携の充実や担任と生徒との日常的な面接指導を実践し、個々の生徒が希望する進路の実現を図る。
 - ③ 進路指導の充実を図る
教員が教材研究に心掛け、日常の授業の充実を図ることを基礎・基本とする。
また、授業で付けた学力をさらに伸ばすべく、課外授業、土曜講座などの進学補習を十分に活用させ、希望する上級学校へ進学できるように指導する。
- (3) 7年一貫教育の推進と充実を図る。
中京大学附属高校として、7年間を視野においた高大連携教育を進めるとともに高等学校教育の基礎・基本を大切にされた教育活動を展開する。
また、中京大学の教育力の活用や大学が企画する事業などへの積極的な参加により、本校教員の資質向上を図るとともに生徒の個性・適性に合った能力を養成する。
- (4) グローバル教育の推進を図る。
幅広い知識・教養を身につけ、英語で自分の考えを表現し、互いの理解を深めることのできる人材を育成するため、国際コースと国際英語クラスを中心としたグローバル教育を推進する。
また、真剣味を体現し、国際社会の動きに常に敏感で、何事にもしなやかに対応できる豊かな人間性を育む。
- (5) 自主・自立の精神を養い、実社会において主体的に生きる力を育成する。
生徒会活動や部活動などに積極的に参加させることにより、これからの社会で主体的に判断や行動ができ、適切に問題を解決する能力を育成する。
- (6) 本校の生徒として誇りと自覚を持ち、自らに厳しい自律心と他に優しい思い遣りの心を備え、自他の健康・安全に配慮できる人間を育成する。

2020年度重点目標

中京大学附属中京高等学校中期計画 2016-2023 に基づき教育改革を推進する。

校長学校経営方針（私たちの心構え Our Attitude）

- 1 全職員が建学の精神「学術とスポーツの真剣味の殿堂たれ」の具現化に取り組む。
- 2 教育目標の達成と課題解決を図るため、人事においては適材を適所に配置する。
- 3 生徒第一 高い目標を掲げ、勇気と創造力をもって挑戦し、高いレベルの教育を提供する。
- 4 中京大中京を担う、次世代のリーダーを育成する。
- 5 前例にとらわれることなく「中京だからできること」「中京にしかできないこと」の実現を目指し、常に他の私学の一步前に行く。

1 授業改革及び指導力の向上

- ・主体的・対話的で深い学びの視点からの指導方法を改善する。
- ・授業改善アンケートと授業研究日等を効果的に活用し、授業改善のPDCAサイクルを確立する。
- ・「自ら学ぶ」を具現化する探究活動を推進する。
- ・各コースに応じたICT教育ポリシーを確立し、導入計画を策定する。
- ・各教科においては、新学習指導要領の研究を進め、教育内容及び学習評価の充実を図る。

2 7年一貫教育の推進

- ・高大連携プログラムを再構築する。
- ・「新・附属校推薦制度」「新・進路換算点」を策定する。

3 グローバル教育の推進

- ・相互交流にとどまらず、ICT等を利用した日常的な交流を推進する。
- ・多角的にグローバル教育の推進を図る。
- ・長期留学制度の導入を検討する。

4 国際コースの充実・発展

- ・海外提携校との交流前学習プログラムを検討する。
- ・コース主任等役割を明確にし、業務の円滑化を図る。
- ・英語科教員全員の共通理解の下、国際コースの取り組みを後押しする。

5 スポーツクラスの充実

- ・スポーツクラスの充実を全職員で後押しするとともに、シラバスを充実させ教育内容を発展させる。

6 進路指導の充実

- ・東大プロジェクトをはじめとする教員特任チームの支援及び、難関大学チャレンジのための奨学制度を充実させる。
- ・得意教科の学力をさらに向上させるスポットライトゼミの充実と、将来の生き方を考えさせる、キャリア探究プログラムを推進する。
- ・学習習慣を定着させる、学びのプラットフォームの充実と、自主学習の場「C-Wing」の利用定着を図る。

7 生徒指導の充実

- ・SNS 等に関する指導の充実を図るとともにスマホ等の校内使用ルールを確立し徹底させる。
- ・ケース検討会議の充実と規程等の見直し検討に着手する。
- ・生命を大切に作る心や他人を思いやる心、善悪の判断などの規範意識等の向上及び道徳教育の指導計画を策定する。

8 入試広報活動の充実

- ・全教職員が入試広報部員との自覚を持ち、生徒募集・広報活動に積極的に参画する。
- ・入試、広報、その他関連部署の担当者を明確にし、業務の効率化を図る。
- ・中学校訪問、入試説明会、私学展、オープンスクール、上級学校訪問等に若手教員を積極的に参画させる。

9 生徒会活動の充実

- ・主体的な学びと中京大中京生の誇りを醸成する生徒会活動の充実を図る。
- ・生徒会予算を見直し、効果的かつ適正な配分を検討する。
- ・働き方改革を受け、強化指定部以外の活動等を見直す。

10 諸規定の見直し

- ・各種委員会について廃止を含めて検討し、現状の学校運営課題を解決し実効性のあるものとする。

11 学校評価制度の確立

- ・学校評価制度を PDCA のサイクルで活用し、本校教育活動の充実と説明責任を果たす。

12 若手教員育成の充実

- ・先進校視察の立案、計画、報告を通じ、将来構想に役立てる若手研修を創設する。
- ・校務運営の各部署で若手教員の参画を検討する。
- ・若手教員の学級経営の手助けに、経験豊富な教員を充てる。